

【葛飾区単独】 男性のHPVワクチンの任意予防接種について

この予防接種は、本人及び保護者(16歳未満に限る)の同意のもと、接種することができます。

1 HPVの病気について

HPV(ヒトパピローマウイルス)は、主に性行為によって感染するウイルスです。性行為を経験する年頃になれば、男女を問わず多くの方がHPVに感染します。ウイルスの遺伝子型は200種類以上あり、ほとんどは問題を起こしませんが、その一部は子宮頸がんのほか中咽頭がん、肛門がん、尖圭コンジローマなどの疾患の原因になることが分かっています。

2 ワクチンの効果

男性がHPVワクチンを接種することで、中咽頭がん、肛門がん、尖圭コンジローマ等の原因と考えられているHPVへの感染予防が期待できます。加えて、男性がワクチン接種による感染予防をすることで、性交渉によるHPV感染から女性を守り、子宮頸がんの予防にも繋がります。

3 助成開始日

令和6年7月1日から

助成開始日より前に接種した費用は全額自己負担です。払い戻しありません。

4 対象者

接種日現在、葛飾区内に住民登録のある小学6年生から16歳(高校1年生相当)の男性
ただし、既にHPVワクチンを3回接種している場合は、対象になりません。

5 助成回数・助成金額・接種間隔

HPVワクチンのうち、4価ワクチン(ガーダシル)の接種費用を助成します。(1)

助成回数	助成金額	標準的な接種間隔(2)
3回まで	全額(無料)	2か月の間隔をおいて2回接種後、1回目の接種から6か月の間隔をおいて1回

1 4価ワクチン以外のワクチンはできません

2 当該方法で接種できない場合は、1か月以上の間隔をおいて2回接種後、2回目の接種から3か月以上の間隔をおいて1回接種します

6 費用助成を受けられる医療機関

「男子HPV任意予防接種実施医療機関一覧表」をご確認ください。
実施医療機関以外で接種を受けた場合、助成の対象外となります。

7 HPVワクチンによる副反応

副反応には、注射部位疼痛、注射部位紅斑、注射部位腫脹、注射部位そう痒感、発熱、頭痛等が報告されています。

8 予防接種を受ける際の注意事項

予防接種は、体調の良い日に行うことが原則です。

以下の状態の場合には予防接種を受けることができません。

明らかに発熱(通常 37.5 以上をいいます)がある場合

重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな場合

受けるべき予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある場合

その他、医師が不適切な状態と判断した場合

また、場合には、かかりつけ医師に相談の上、接種するか否かを決めてください。

心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患及び発育障害等の基礎疾患を有する場合

予防接種で接種後 2 日以内に発熱がみられた場合及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を起こしたことがある場合

接種しようとする接種液の成分に対して、アレルギーを起こすおそれがある場合
過去にけいれん(ひきつけ)の症状を起こしたことがある場合

過去に免疫不全の診断がなされている場合及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる場合

9 HPVワクチン接種後の注意

接種後に急な副反応が起こることがありますので、接種後30分程度は接種を実施した病院にいるなどして体調の変化を観察し、医師とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう。

接種後、数日以内に高熱やひどい腫れ、けいれんがあった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

当日の入浴は可能ですが、注射部位を擦ることはやめましょう。

当日は注射部位を清潔に保ち、激しい運動は避けましょう。

10 健康被害救済制度

健康被害の救済については、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づく「医薬品副作用被害救済制度」及び「葛飾区予防接種災害補償要綱」に基づく救済の適用となります。

【問い合わせ先】葛飾区健康部(保健所)保健予防課 感染症対策係 TEL 03-3602-1238